

非鉄スクラップ展望

10月の銅・アルミスクラップ市況見通し

橋本アルミ(大阪府)取締役 橋本健一郎氏(関西非鉄リサイクル協同組合理事長)

米中貿易戦争と英国のEU離脱動向に注目

10月は引き続き米中貿易戦争の行方と、英国のEU離脱動向がポイントになるだろう。米中貿易戦争に関しては過度な懸念は後退傾向にあるが、中国が建国70年となる国慶節で米国を牽制する発言や軍事パレードを行うなど、まだまだ混乱が収束する気配がない。

一方、英国のEU離脱問題については、ジョンソン首相の強硬姿勢が保守党議員との間で軋轢を生んでいるが、離脱派の議員たちの間では共感を呼ぶなど、こちらもしばらく混乱が続きそうだ。以上2点の動向が留意事項となる。



橋本健一郎取締役

スクラップの流通在庫は、銅建値が9月中旬に \uparrow 3万円(9月13日に64万円 \rightarrow 67万円に改定)の上昇となった時に多少荷動きが良くなったものの、依然塩漬け玉が多く、建値が70万円程度に回復しないかぎり出回らないはずだ。ただ、需要面に関しては足元の生産が徐々に悪化しておりメーカーの購入意欲は弱い。スクラップの販売は当面厳しい状態が続く見込みだ。

以上を踏まえ、10月のLME銅価格(セツルメント)は5,600~5,800 ドル のレンジ、銅建値は63~67万円と予想している。

アルミスクラップの国内概況、景況予想

銅スクラップの国内概況、景況予想

10月の銅建値は前月末から据え置き \uparrow あたり66万円、LME銅価格は9月中旬から127 ドル 安の5,728 ドル でスタートした。

国内の概況を見ると、7月の四輪自動車生産台数は89万6906台で前年同月比11.8%増。9月の国内自動車販売台数(軽除く)は34万7706台で同12.8%増。8月の住宅着工戸数は7万6034戸で同7.1%減だった。自動車は大幅増となったが、来月は調整が入る可能性が高く、減少も考えられる。住宅着工は引き続き動向を注視していく必要がある。

一方、8月の伸銅品生産は同10.8%減の5万3457 トン で9か月連続の減少となった。今年8月は通常より夏季休暇が長く、伸銅メーカーの稼働日数が少なかったことも影響した。ただ、来月も増税前の駆け込み需要が乏しかったことから減少傾向が続きそうだ。8月(推定)の銅電線出荷も同3.4%減の5万3200 トン と冴えなかった。8月の輸出に関しては、電気銅は減少したが、スクラップは内需の低迷から大幅に増加。輸入は内需の低迷から電気銅は大幅に減少した。

指標となるLMEアルミ価格は9月中旬から67 ドル 安の1703.5 ドル で10月スタートした。

8月のアルミ圧延品生産出荷は板類・押出類の生産合計が前年同月比6.7%減の13万5299 トン と再び減少に転じた。先月は19か月ぶりに増加に転じていたため、今後の動向を注視したいところだ。8月のアルミ二次合金・同合金地金等生産実績は同4.2%減の5万7406 トン で8か月連続の減少。出荷も同6.3%減の5万8927 トン で3か月連続の減少だった。今後も減少傾向が続くのかどうか見守る必要がある。8月のアルミ輸出に関しては、自動車の内需で二次合金のみ減少。輸入は内需低迷から全品種が減少した。

スクラップの流通在庫は、前月に続き販売価格の低迷や生産減、発生の減少で少ないはずだ。ただ、メーカーは生産状況が悪化しているうえ、安い輸入塊が入着していることや米中貿易戦争から先行きの不透明感が強いことから、購入意欲は弱い。銅スクラップ同様にスクラップの販売面は厳しい状況が続くと見ている。

以上を踏まえ、10月のLMEアルミ価格は1,700~1,800 ドル のレンジ。スクラップ購買(前月最終価格より)は据え置きから-5円程度と見込んでいる。

10月銅予想レンジ		基調
LME銅セツルメント	5,600~5,800 ドル	横ばい
銅建値	630~670円(¥)	弱い
為替	1 ドル =106~109円(1か月間TTM)	円安

10月アルミ予想レンジ		基調
LMEアルミ現物後場買い	1,700~1,800 ドル	横ばい
スクラップ価格	0~-5円(前月最終価格より)	弱い
為替	1 ドル =106~109円(1か月間TTM)	円安